

関係機関各位

令和元年7月1日

富良野市長 北 猛俊
富良野商工会議所 会頭 荒木 毅
ふらのまちづくり株式会社
代表取締役社長 西本 伸顕

富良野市中心市街地の路線価が6年連続の上昇 ～対前年変動率「2.7%」上昇・2013年対比「31%」上昇～

国税局が7月1日に発表した2019年（令和元年）の全国各都市の路線価で、富良野市内の中心市街地地区において、フラノマルシェ及びネーブルタウンが面する東五条通の路線価が対前年比2.7%上昇。道内各税務署の最高路線価の対前年変動率では倶知安町、札幌市、小樽市、函館市に続き、道内で5自治体、上川総合振興局管内では本年も唯一の上昇となっています。

富良野市では、2008年（H20）より実施して参りました中心市街地活性化基本計画に基づく各種事業の効果により、2014年（H26）より6年連続の地価上昇となり、2013年対比で31%の上昇となりました。

■官民一体となった協働のまちづくりを実践

富良野市では、2008年11月に富良野市中心市街地活性化基本計画「計画期間：2008年（H20）11月～2014年（H26）10月まで」が内閣府の認定を受け、この計画に基づく第1期事業として、2010年（H22）に「フラノマルシェ」を開いたしました。（現計画は2014年11月認定、計画期間：2014年（H26）11月～2020年（H32）3月までの第2期中心市街地活性化計画の事業を実施中）

集客数は初年度の約55万人から右肩上がりの成長を続け、2015年（H27）6月には第2期事業である市街地再開事業「ネーブルタウン」が完成。同年オープンした「フラノマルシェ2」も好調で、2017年（H29）には入込客数が122万人強を記録しました。2018年度は北海道胆振東部地震、それに次ぐブラックアウトによる臨時休業等の影響で9年連続での入込客数更新とはならなかったものの、1.4%の落ち込みに留め、オープン以来の来場者数は2019（H31）年3月末時点で累計843万人を突破する状況となりました。

これらの事業は、公益的ディベロッパーである「ふらのまちづくり株式会社」が事業主体となって、国の政策に基づき中心市街地の再編を主導し、市は計画策定・補助金等の支援を行うなど、行政と民間がそれぞれの役割分担を明確化し、公民一体となって取り組む「協働のまちづくり」の成果と考えます。加えて、ここ数年の本市中心市街地路線価の上昇は、中活基本計画に基づく一連の事業展開が大きな効果を及ぼしたものと思われる、中心市街地の価値向上と共に商店街の資産価値の向上によって、まちなかの賑わい（活性化）にいつそう拍車がかかっていくものと考えております。



今後も引き続き、本市中心市街地活性化の一つのバロメーターとして地価の推移を注視しつつ、中活基本計画に基づく事業展開を着実に推進していきたいと考えております。

【本件に関するお問い合わせ先】

- 富良野市経済部中心街整備推進課長 黒崎幸裕
TEL：0167-39-2315 Fax:0167-23-2123
- 富良野商工会議所業務課長 木川田正和
TEL：0167-22-3555 Fax:0167-22-3120
- ふらのまちづくり(株) 統括マネージャー 岩本 力・吉田育夫
TEL：0167-23-5177 Fax:0167-22-0511